

●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 19

高蔵坊狐伝説

伝説
そぞろ歩き

本能で
胡蝶のごとく
狙いうち
万能神は
恋愛上手



狐がお坊さんに変身

油揚げのお礼に寄付金集め

昔、鷲津の長寿寺の裏山に一匹の年老いた狐が住んでいました。長寿寺の住職は高蔵坊で、高蔵坊がお経を上げていると、狐はお堂の前に座ってお経に聞き入っていました。お経が終わると、高蔵坊は狐の大好物の油揚げを一枚ご褒美に渡してやるのが日課です。

ある雨の日、お経を上げていると、お堂が雨漏りし始めました。「そろそろお堂を建て直さなければならないが、お



▲長寿寺の裏山には高蔵坊狐が祀られている高蔵坊稲荷がある。

金はないし困ったことだ」と高蔵坊は困り果てていました。それを聞いて狐は急にいなくなりました。1ヵ月経ってもお堂の前に現れません。心配になって裏山に見に行っても狐は出てきませんでした。

それから半年が過ぎ、狐がひょっこり帰ってきました。袋いっぱいのお金と一冊の帳面を高蔵坊の前に置いて裏山に入っていました。

帳面には「長寿院本堂改築寄進」と書いてあり、何千人の名前が書いてあります。高蔵坊は「ありがとう。寄付金集めに飛び回ってくれたのだね」と狐にお礼を言って、本堂の改築に取りかかり、やがて立派に出来上がりました。

狐はお堂の前に来て、お経を楽しそうに聞いています。春になり、急に長寿寺にお参りする人が増えました。びっくりして参拝者に尋ねると「昨年、高蔵坊というお坊さんが来て、長寿寺の観音さまには世にも稀な御利益があるので、ぜひお参りくださいと言われたので、お参りに来ました」と口々に話します。それを聞いてびっくり。「狐が私に化けて村の人に説いて回ったに違いない」と心の中で狐に手を合わせました。

それからというもの、裏山の狐は「高蔵坊狐」と呼ばれ、裏山に油揚げやおにぎりをお供えするようになったというのが、高蔵坊狐伝説です。



ギリシャ神話の主人公ゼウスは恋多きトラブルメーカー

狐がお坊さんに変身したという話ですが、ギリシャ神話で変身の名人といえばゼウスです。神様なので、名神というべきでしょうか。全能の神・ゼウスは、とにかく恋多き神で、正妻であるヘラの見張りから逃れるため、事あるごとに変身。エウロペ(フェニキアの王女)には白い牡牛、レダ(スパノタの王妃)には白鳥、ダナエ(アルゴスの王女)には黄金の雨、アルクメネ(アルゴスの王女)には彼女の夫になってそれぞれ結ばれています。

真実の愛の探究者なのか、正直者なのか、ただの好き者なのか、とにかく「そこまでしますか」というぐらい、思いを遂げるためにはどんな手段でも講じます。ゼウスに求愛



されたら最後、絶対に逃れられないのです。

それだけに、子供にも恵まれ、前回特集したレトの間にはアポロンとアルテミスの子、エウロペの間にはミノス(クレタの王)、レダの間にはヘレネ(パリスと駆け落ちしてトロイア戦争の原因をつくらした張本人)、ダナエの間にはペルセウス(ミュケナイ初代王)、アルクメネの間にはヘラクレス(12の冒険で有名な英雄)、マイアの間にはヘルメス(伝令の神)、セメレー(テバイの王女)の間にはデオニソス(酒の神)、アフロディーテの間にはエロス(愛の神)、メティスの間にはアテナ(知恵の女神)、デメテル(穀物の女神)の間にはペルセポネ(冥界の女神)をもうけています。さらに正妻ヘラとの間にもアレス(戦闘の神)、エリス(不和の女神)をもうけ、ギリシャ神話に登場するメインキャストの面々の父親でもあるのです。

押しも押されぬギリシャ神話の中心人物であり、トラブルメーカーでもあるゼウス。ここまでくると、さすがとしかいいようがありませんが、着飾ることによって変身し異性の気を引く行為は、人間の本能なのかもしれません。



▲高蔵坊狐伝説ゆかりの長寿寺。

※次回は、熱田神楽伝説について特集します。お楽しみに。

■ 写真/Kiyoshi K ■ イラスト/Rei ■ 取材文/Icarus